

## 保健物理・環境科学部会セッション

## 原子力事故の経験等を踏まえた環境モニタリングのあり方

Appropriate designs for environmental monitoring  
based on the lesson learned from the nuclear accidents

## (3) 環境モニタリングの今後の課題

## (3) Future scope on environmental monitoring

\*飯本武志<sup>1</sup><sup>1</sup>東京大学

原子力事故の経験等を踏まえて、緊急時および平常時における環境モニタリングのあり方に関して、今後の課題、論点を整理する。

**キーワード：**環境モニタリング、原子力事故、緊急時モニタリング、平常時モニタリング

原子力規制委員会「環境放射線モニタリング技術検討チーム」は、当面の検討課題として、

(1) モニタリングの技術的基盤に関する事項 ○放射能測定法シリーズ ○モニタリングの品質保証  
(2) モニタリング実施方法の継続的改善に関する事項 ○緊急時モニタリング ○平常時モニタリング  
の2区分4項目を挙げた。これらに直接的または間接的に関連する検討上の留意点について、後者の区分を用いていくつかの例題を以下に列挙する。

## 【緊急時モニタリング】

- ✓ 緊急事態発生直後におけるモニタリングの対象と頻度等の最適化
- ✓ 機材仕様とデータ表示手法（単位、様式等）の標準化
- ✓ モニタリング支援機関（公共団体、大学、研究機関等）に求められる資源・能力等の標準化
- ✓ 拡散計算と組み合わせることによるモニタリング実施の効率・精度向上の可能性の検討
- ✓ 緊急時使用に特化した、機能を限定した低コスト機材の開発
- ✓ モニタリングの実施とその結果を扱う人材との間の連携訓練の充実
- ✓ 放出核種に着目した線量評価への影響の考察

## 【平常時モニタリング】

- ✓ 従前から続くモニタリング計画との整合性への配慮
- ✓ モニタリングに関する規制間の整合性への配慮
- ✓ 平常時モニタリングにおける緊急時モニタリング経験（航空機サーベイなど）の確保
- ✓ 緊急時にも展開可能な人材・資材の確保と、その継続的な開発および維持管理

## 【その他】

- ✓ 長期にわたるトレーサビリティの担保とその支援体制の構築
- ✓ さまざまな被ばく状況において目標とすべき検出限界値の考え方の整理

---

\*Takeshi Iimoto<sup>1</sup>

<sup>1</sup>UTokyo